

会議名 平成27年度第1回ニセコ町環境審議会

開催日 平成27年 7月 9日	会議時間	開会 PM 2:00 閉会 PM 4:15
会議場所 ニセコ町民センター研修室1	記録者 企画環境課環境モデル都市推進係	
出席者 松本（柴田委員代理）、阿部委員、チャーチル委員、牧野委員、本間委員、猪狩委員、葛西委員、中川委員 片山町長、山本課長、桜井係長、大野主任		
欠席者 黒滝委員、新谷委員		

会議日程

- 1 開会
- 2 町長あいさつ
- 3 委嘱状交付
- 4 審議事項
 - (1) 会長・副会長の選出について
 - (2) 平成25～26年度の環境の取組内容について
 - (3) ニセコ町環境モデル都市アクションプランについて
- 5 その他
- 6 閉会

会議内容

1 町長あいさつ

・委嘱状を皆さんの席に置かせていただいている。第1次環境基本計画策定当時、環境担当として関わった。第2次環境基本計画は第1次環境基本計画を引継ぎ、「よい環境を子どもたちに残したい」という思いを込めている。水資源に関する条例も北海道に先駆けて策定した。環境モデル都市ではCO2を86%削減することを目標に掲げている。具体的に取り組んでいくためにみなさんから自由に意見をお願いしたい。

2 自己紹介

・各委員及び事務局全員、審議会に臨む問題意識や取組について自己紹介を行った。

3 審議事項

(1) 会長・副会長の選出

ニセコ町環境審議会設置条例に基づいて、会長、副会長を互選により選任

→会 長：本間泰則氏

副会長：新谷志織氏

本間会長あいさつ

・この審議会の重要性を認識している。委員のみなさんには、ぜひ熱い想いを語っていただき、取組の進捗状況や方向の軌道修正にご協力いただきたい。

(2) 平成25～26年度の環境に関する取組み内容について

別紙資料「第2次環境基本計画」、平成25年度と26年度の「第2次環境基本計画 環境プロジェクトごとの取組概要」及び「ニセコ町の環境に関する主な取組」にて事務局より説明を行った。環境基本計画に定める外部評価機関として「環境評価の会」から提出された「「ニセコらしい里山」の創出と保全」を紹介し、傍聴として参加していた「環境評価の会」の井上剛代表より概要説明を行った。

【質疑・意見等】

- ・環境基本計画を実現していくための時間軸はどのようになっているのか。
→プロジェクトごとに実現に向けたロードマップが示されているが、整理はできていない。
- ・自然環境保全に関わると思うが、フットパスの取組についても位置づけてはどうか。歴史的な建造物にも光をあてる取組。草刈など基本的にはボランティアで行っている。
- ・有島地区では有島謝恩会が灌漑溝の草刈や清掃を行っているが、人手が足りなくて除草剤を使わざるを得ない。今年はラジオニセコなどで町内会以外の方にも呼びかけて数人が手伝いに来てくれた。サイクリングや歩いている方も多く、魅力的な場所として利用し、維持活動にも参加することがいいモデル地区になるのではないか。
→草刈をして、町内の温泉に入ってもらえるとありがたい。有島地区は、千本桜運動や今年はオビラメの会がイトウの親魚の飼育池も設置予定など様々な団体の様々な取組がある。産業・観光・農業もいい環境が基盤となっており、フットパスもあちこちで取組が行われている。
- バラバラに情報発信しては参加人数も限られるので、なにか情報プラットフォームのようなものをつくってはどうか。
- ・ルベシベ川沿いに田んぼをもっているが、フットパスのコースにもなっている。これから国営農地再編整備事業がはじまるとコースも影響を受けるし、景観も変わるだろう。景観を守ることと効率的な農業の両立をどう考えたらよいか。
→国営農地再編整備事業では「景観に配慮する」ことを重要視しており、地域の方の意見を聞きながら進める。現在示されているのは概要のみなので、意見を反映させられるチャンスである。
- ・実際の取組で抜けているものがあるのであれば、住民が行っていることを町が把握する仕組みを考えてはどうか。北海道環境財団では、道内の環境団体のリスト化に長年取組んでいるが、団体の活動をPRする場や環境団体への助成制度などを作ると情報が集まってくる。
→行政としては住民の取組を把握しきれていないので、そのような仕組みは重要。
- 有島地区だけとって、多くの団体が活動している。リストが広がれば町全体の取組が見渡せるようになる。
- 事前に活動がわかれば社内でチームを作って手伝いに行く。今までも千本桜やカボチャ置きなどに手伝っているの、他の活動も支援できると思う。
- 学生やインターン生の研究テーマとしてまとめてもらえると、町も学生もお互いにいい関係が築ける。
- 学生の実習をニセコ町で行うとなると交通費と宿泊場所の問題がある。研究をテーマにニセコ町に安く滞在できる場所があると助かる。
- 地区のコミュニティセンターをもっと活用してはどうか。いまでもバレーの合宿などで活用して

いる。

(3) ニセコ町環境モデル都市アクションプランについて

別紙資料「環境モデル都市アクションプランについて」、「環境モデル都市アクションプラン」及び「(平成 21 年度緑の分権改革) 事業者・家庭向けアンケート実施結果」にて事務局より説明を行った。

今年の実施としては、環境省のグリーンプラン・パートナーシップ事業（以下、GPP 事業）に申請中であること、環境と観光を組み合わせた海外客向けの Edu Vacation を検討中であること、JOGMEC（独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構）による地熱資源のポテンシャル調査がニセコ地域で行われること、王子製紙と伊藤忠エネクスが組んだ新電力会社から電力の購入を検討していることなどの紹介。

【質疑と意見等】

- ・大型観光施設は莫大なエネルギーを使っており、経費削減も目的に、現在LED照明やインバーター制御に取り組んでいる。新電力についても検討しており、できるだけ早く取り入れていきたい。
→新電力の取組は他のホテルにも紹介してはどうか。
- ほかのホテルや綺羅乃湯も現在検討中。今年3月に補正予算で経済産業省の民間向け省エネ設備への補助制度があり、町でも早くから説明会など開催するなどしたが、予算800億円があつという間になくなってしまった。
- ・EduVacation で参加者に草刈など何か手伝いを依頼できないか。
→海外向けの事業だが、参加型というのは重要な視点なのでぜひ組み込みたい。
- ・環境省のGPP事業はどのような中身なのか。
→調査事業であり、予算上限1000万円で公共施設として綺羅乃湯、幼児センター、給食センター及び大型観光施設の省エネの基礎調査を行い、具体的な省エネ設備の導入につなげる。来年度はGPP事業のハード向け制度、民間1/2、自治体2/3のメニューの利用を予定している。
- ・風力発電のアセスメント事業とは関係があるのか。
→関係はない。以前の調査では7基程度は可能とのことだが、風況調査など国の補助がないとなかなか動けないので、チャンスを伺っている。
- ・JOGMECでは、ヘリコプターをとばして地熱資源のポテンシャル調査を行う。中央地区での調査を要望したが、駅や国道周辺、送電線の近くは飛べないので、できないとのこと回答だった。
- ・交通分野として参加しているが、千歳空港からニセコまでの移動及び冬場がメインなので、CO2削減という点では大変難しい。繁忙期にはガソリンをいれる時間もない位なので、EVを充電する時間はない。車の技術者に努力してもらうことのほうが重要だと思う。
→マイクロバスなど廃食油はどうか。北海道も今年水素の会議を作って検討をはじめた。低公害車としては、廃食油をそのままいれるタイプとBDFに転換するタイプの2通りあり、両方とも北海道では滝川市や天塩町で走っており、寒冷地でも問題ない。
→廃食油は以前にニセコ町でも取組んだが、量の確保が課題で続けられなかった。
→ヒルトンではニセコ運輸に引き取ってもらっている。
- ・初回だが活発な議論ができた。今後観光や交通など分野を分けて議論することはしないのか。
→GPP事業が採択されたら個別にご意見をいただく。
- ・住民の環境活動リストのとりまとめをできるだけ早くスタートしたい。
→傍聴として参加している地域おこし協力隊にお願いできないか。

- 東京で環境団体の取組をPRする事業を行っており、ぜひ協力したい。
- ・地区のコミュニティセンターの宿泊も可能にしたい。
- 個別に管理者との話し合いになるが、食事や交通費などニセコ町を研究してくれる人たちのための予算化を考えたい。
- 「地方創生」では学校の活用も重要なテーマになっている。ぜひ多くの学生に来てもらいたい。
- 昨年度のニセコ町のインターン生は「移住」をテーマに、うちにもヒアリングがあり、レポートを送ってくれたが、大変すばらしい内容だった。町民がそのような報告に接点をもてないのが残念。環境をテーマにしたインターン生に来てもらえないか。
- インターン生はそれぞれが研究テーマを持ってくるので環境とは限らないが、インターン生の報告会は役場内で行っており、今後は町民にも公開周知するようにする。

4 その他

- ・環境省GPP事業「ニセコ町低炭素な地域づくり実行プログラム作成事業」では、プロポーザルで委託業者を選定予定。プロポーザル審査会に本環境審議会から2名審査委員として参加をお願いしたい。会長・副会長を予定。
- ・次回は2月に開催。

町長あいさつ

- ・今年2月にドイツの環境ジャーナリストの村上敦さんに講演していただいたが、ドイツの建築技術を学んで、省エネにも取組んでいくなど環境保全に関して様々な情報収集をしながら環境政策を進めていきたい。今日のご参加ありがとうございました。